

事業所名		公表日			令和 8年 3月 31日	
ブルースカイ 南浦和教室		対象数			回収数	
		I 3			I 3	
1	訪問支援員からの助言や説明は、具体的にわかりやすく、取り入れやすいものですか。	8	3	2	<ul style="list-style-type: none"> 提案して下さったのが自園では対応が難しい場合があるが、その時は他の案を出して下さり参考になっている。 とてもよく見て下さり、説明も分かりやすい。来園する方によって見るだけ、話をして下さる等違うこともあるので、こちらはどのようにしたら良いかわからない時もある。 具体的にどのような取り組みをしているのか等共有されず、こちらの様子を伝えて助言は特にない 園でも取り入れると良いことを具体的に教えてほしい 共有するのみで、取り入れやすい助言はない 訪問後、カンファレンスにて細かく丁寧にお話し下さる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○柔軟な提案ができています →提案時には必ず ①理想案 ②現実的実施案 ③最低限できる簡易案 など段階的に提示できるように善処します。 ●来園者によって対応が違い、園が戸惑う →直接支援か間接支援か支援スタイルを統一するようにいたします。 ●様子は伝えるが、助言がない →フィードバックの基本構造を統一するようにいたします。 ① 事実（○○の場合で△△が見られた） ② 解釈（□□が背景にある可能性） ③ 具体的提案（園でできる取り組み） →指導員間の情報共有、研修 ・訪問者ミーティングで事例共有 ・助言の出し方の研修を受けたり、フィードバックの練習を行います。 ●園でも取り入れられる具体的提案が欲しい →具体行動レベルまで落とし込んだ提案するようにいたします。
2	訪問支援員の支援に対する知識・技術等に満足していますか。	6	6	1	<ul style="list-style-type: none"> ・対象児の成長してきているため、いつもお褒めの言葉を頂くことが多い。そのため、あまり知識や技術に触れる場面がない。 ・いつも同じ方が見に来て下さると、前回の繋がり等も分かりやすいと思う。 ・様子を見に来て下さるが、それに対するように関わると良いなど助言がないのでわからない ・報告書に「支援先でもこのような支援を取り入れます」ということは記載しているが、ほとんどが保育内容をそのまま記載したものである為、具体的な支援方法を教えてほしい。 ・具体的なアドバイスがほしい ・療育で取り入れている内容の話も伺えるの満足している 	<ul style="list-style-type: none"> ○関係性・姿勢への信頼は高い ○丁寧に見ているという評価 ●褒めていただくことが多く、知識や技術に触れる場面が少ない →「褒め＋専門的視点」をセットにお話ができるようにいたします。 ×「落ち着いていますね」 →「現場の構造化が効果的だったと考えられます。園でも活動前に見通し提示を続けると安定しやすいです」とより具体的にお話をいたします。 ●具体的アドバイスがほしい →「明日からできる1アクション」を提示させていただきます。 ●同じ担当者が来る方がつながりが分かりやすい →園によっては担当を固定する。難しい場合は引き継ぎを行い、前回からのつながりを重視するなど、考えさせていただきます。
3	訪問支援員は質問に対して、適時・適切に回答してくれていますか。	8	5		<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に（半期に一度）でも共通理解の場があると、質問しやすい。 ・訪問後の振り返り時間が15分ほどしか取れないが、職員からの質問時間が多い為、もう少し事業所や課題に対しての知識などが欲しい ・共感のみ 	<ul style="list-style-type: none"> ●半期に一度でも共通理解の場が欲しい →必要な場合は、定期合同ミーティングを行わせていただきます。 ●振り返りの質問が多く、知識共有が不足 →①事業所からの専門的共有（5分）→ 発達視点・今回の分析 ② 園での具体的取り組み提案（5分） ③ 質疑応答（5分） →スタッフの支援力を向上してまいります。 事例検討会を実施し、専門的アドバイスに繋がるようにいたします。
4	保育所等訪問支援を利用したことで、課題や困りごとが解消または軽減されましたか。	5	6	2	<ul style="list-style-type: none"> ・園内での課題、困りごとは今年度なくなっている。訪問していただいたときに、課題となっているところを指摘してほしい ・日々成長する部分と新たなこだわり等が出てくる姿があるので、その変化に試行錯誤の日々。 ・元々困りごとや課題が少ないので、特に解消、軽減はしていない。 ・就学に向けては特に情報共有をして、対象児に対しての理解（保護者含め）ができるとう良い。 ・保護者も交えての訪問支援では、担任・保護者・指導員の3人で共有することができ、家や事業所でやって頂く課題が見つかり、本児の成長が見られた。 ・お電話で丁寧に回答していただいている 	<ul style="list-style-type: none"> ●困りごとはなくなっているが、課題を指摘してほしい →困っていることを支援するスタイルだけではなく、専門的視点からの「発達課題の先読み」を行わせていただきます。 訪問時の視点を ① 現在の強み ② 伸びしろ ③ 就学や今後を見据えた課題として、次のステージを提示できるように支援力を向上してまいります。 ○三者共有は成果が出ている →ご希望があれば、三者同席を行い共有・課題設定を行ってまいります。 ●就学に向けた情報共有は重要 →就学に必要な力のチェックリスト活用、学校生活を想定した支援、保護者との三者共有強化を考えてまいります。
5	事業所からの支援に満足していますか。	7	5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・フィードバックの時間では、幼稚園の普段の様子をお伝えするだけでなく、課題に対しての支援方法の提案をもっと聞きたい。 ・満足している 	<ul style="list-style-type: none"> ●共有だけでなく、専門的“提案”をもっとほしい →フィードバック時間の構造化できるように支援力を向上してまいります。 ① 事業所からの分析 ② 課題に対する具体的支援提案 ③ 園からの質問
その他、お気付きの点をご記入ください。						
<ul style="list-style-type: none"> ・いつも丁寧な対応ありがとうございます。集団（園）と教室との生活の違いがあるため、これからも情報交換の場として活用させていただきたい。 ・来てくださる職員によって観察するだけの場合と、一緒に遊んで1対1で関わりを支援して下さる場合がある。1対1での関わりや支援の様子から声かけの仕方や対応など参考になることが多いので大変ありがたい。 ・対象児の行動の意味やそれに対する関わり方等、もっとたくさん専門的視点から教えて頂けると嬉しい。 ・報告書を細かく記載いただいたり読ませてもらっている。普段の保育の参考にもさせて頂きたいので、園としてどういった関わり方が有効なのか、どのような活動や遊びが良いのかも教えて頂けると嬉しい。 ・報告書は数ヶ月分まとめてではなく、1ヶ月ずつ頂けるとタイムリーにいけるのではないかと。 ・子どもへの対応で困ったことを質問しても相槌で終わってしまったり、事業所での様子を伝えられて終わってしまう。もっと専門的なアドバイスを頂きたい。月別の2回の訪問で、フィードバックの時間も本来なら保育や行事の練習時間である為、こちらへの一方的な質問ではなく、もっと知識や技術などを教えてほしい ・いつも丁寧なやり取りありがとうございます。 ・報告書について事実を淡々と記載され、本児の思いが汲み取られていないように感じ、少し悲しい気持ちになる。保護者もショックを受けている。報告書という意味では事実を記すことに問題はないが、言葉選びやどうしてそのように至ったのか本児の思いに寄り添う言葉にしてほしい。また、それに対してどのような対応をするかとの具体的なアドバイスが欲しい。共有するのみなので、もっと実りある時間になると良い。 ・いつも大変お世話になっています。訪問支援では引き続き直接支援を希望します。適宜お力添え頂けたら、大変ありがたいです。迷いも事前にご連絡・相談して下さり、大変安心しました。引き続きよろしくお願いいたします。 ・お忙しい中訪問して頂き大変感謝している。カンファレンスの際、対象児についての助言というより職員の支援について認めるお声を頂くことが気になる。先生たちが頑張っている、素晴らしいお褒めの言葉をかけて頂き嬉しいが、しっかりとアドバイスやこちらから相談したいと思えるような対応をして頂きたい。質問に対して当たり前のことや、既に対応していることを返答されても改善しにくい困ってしまう。 ・事業所での子どもの様子、方向性を共有して頂けると、同じように園でも行える。毎回とても丁寧にご連絡いただきありがたい。こちらの様子の報告だけでなく、もっと質問していこうと思う。 		<ul style="list-style-type: none"> 5 その他 ○丁寧さ・誠実さ・信頼感は十分ある ○1対1支援は非常に評価が高い ○情報交換の場として継続希望 ●共感・承認で終わらず、踏み込んだ助言がほしい →承認+助言を行う ×「先生方素晴らしいです」 ○「先生方が環境を整えていることで安定しています。さらに、活動前に視覚提示をするより予測が立ちやすくなります」 ●報告書が事実中心で、子どもの思いが見えない →報告書では、本児の思いを推察し、「評価語」から「理解語」にする。 ×「指示が通らない」 ○「興味は他に向いていたため、指示が届きにくい状況でした」 ●実践に活かせる具体策が足りない、専門性をもっと出してほしい →専門性を「わかりやすい」「具体的に」伝える力を指導員が身につける ①指導員は観察者ではなく「分析者」である意識する。 ②共感のみで終わらない 共感→分析→具体的提案 例：「切り替えは難しいですね（共感）。見通しの弱さが背景かもしれません（分析）。活動前に写真カード提示を試してみてください（提案）。」 				